

「県民の命を守り、発展を継続させます」 防災、子育て、観光、産業振興を着実に前進



美し国みえ
UMASHIKUNI MIE

一見勝之三重県知事にとって令和7年は1期目の最終年。初当選以来、新施策を含めて次々とスピーディーかつ斬新な施策で県政を推進してきた。経済、子育て、防災、観光など県の持つ潜在力を引き出し、成果が見え始めた分野も少なくない。製造業をはじめとする産業振興や人口減少対策など東海地区共通の課題も多いが、一方で愛知県、岐阜県とは異なった、関西、近畿地方とも近い地の利や観光資源を生かした地域の可能性を追求し続けている。一見知事に令和7年の県政展望などを聞いた。

— 昨年とはどんな年でしたか。

一見知事 まず、国際的にはロシアのウクライナ侵攻、中東の紛争が続き、アメリカではトランプ大統領が選出され、経済的には原油価格をはじめ物価が高騰し、年末には韓国とシリアで大きな混乱がありました。国内でも総選挙で与党が過半数を割り、石破茂総理が誕生し、年収の壁など様々な課題が議論されました。加えて元日に能登半島地震があり、8月には南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が初めて出され、防災をより意識させられる年でした。三重県では8月に豪雨による河川の堤防決壊も発生し、災害対応をしっかりしなければと改めて認識しました。一方で、大谷翔平選手の活躍やサッカーワールドカップ予選で日本がサウジアラビアに勝ち、パリオリンピックではレスリングの藤波朱理選手、体操の杉野正堯選手が金メダルに輝くなど三重県出身の選手も大活躍。これらは明るい話題でしたね。

— 昨年が折り返し点の中期経営戦略「みえ元気プラン」の成果は。

一見知事 まずは県民の命を守る防災対策ですが、県内で必要とされていた18基の津波避難タワーのうち3基ができ、体制が徐々にできつつあります。また、11月には東海3県で初ですが、災害が起きた時にどこに避難すればいい場所を示したりするアプリ、「みえ防災ナビ」の運用を始めました。また、子どもたちのための施策では、「みえ子どもまると支援パッケージ」をつくりました。令和5年度に約98億円だった予算を6年度は約106億円に増やし、市町が行う子ども医療費助成の支援や子



育て支援策への補助をしています。数字的には見えにくいですが、これから効果が出てくると思っています。さらに、産業、農林水産業、観光などでも様々な手を打ってきたつもりです。世界遺産登録20周年の熊野古道では、デジタルスタンプラリーのアクセス数が、昨年10月時点で前年同期比60%増という数字も出ています。まだ、道半ばですが、勢いはついてきていますね。

— 今年の展望をお願いします。

一見知事 引き続き県民の命と尊厳を守り、県の発展を期す、この2つの大きな柱は変わりません。能登半島地震では、三重県から職員、警察、消防、医療、教育関係者など延べ約1万8000人が現地に行き、戻ってから、例えば避難の初動、孤立集落をどうするかなど80の改善事項を議論しました。市町長の皆さんとも議論し、課題を一つずつ前に進めています。子育て支援、産業振興など課題は多いですが、着実に前に進めたいと思っています。